

南あわじ市 平成 22 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

		整理番号	676
事業名	優良後継牛育成事業補助金	予算科目	会計 一般会計・1 款 農林水産業費・6款 項 農業費・1項 目 畜産業費・6目
担当部課名	農業振興部 農林振興課		
電話	0799 - 43 - 5025		
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	南あわじ市農林振興関係補助金交付要綱
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり	
	まちづくりの目標	ふやさんか 食づくりの担い手【農漁業】	
	施策目標	食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる	
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託
			負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対 象 (誰を・どのような状況の人に)	
		市内酪農家	対象人数(人) 173
		意 図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 市内、乳牛の飼養頭数の減少を食い止め、高能力の後継牛の増頭を目指す。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) ホルスタイン雌子牛保留促進事業 雌子牛が誕生しても、実際に利益を生み出すまでには育成期間を含めて2年以上の時間がかかる。近年は飼料価格が高騰し、家畜の飼養コストが増大しており、雌子牛が誕生しても自家保留できず手放さなければならぬ現状がある。 このような現状を鑑みて、雌子牛が誕生した農家に対して自家保留本事業の実施を行った。 受精卵移植事業 乳質・乳量ともに高い水準の優良後継牛の生産のために本事業の実施を行った。 判別精子導入事業 通常の種付けでは雌子牛が生まれる確率は5割以下だが、判別精子であれば9割以上の確率で雌子牛が生まれてくる。酪農業にとっては雌子牛が誕生しなければ飼養牛郡の平均月例もあがり、後継牛も不足することから本事業の実施を行った。	
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 市内酪農家戸数は211戸(平成19年)から192戸(平成22年3月)に減少。酪農経営従事者の高齢化に伴う経営の規模縮小等もあり、乳牛の飼養頭数は6,033頭(平成19年度)から5,493頭(平成21年度)に減少している。酪農家は良質堆肥の供給も担っており、現在の減少傾向に歯止めがかかれば、南あわじの農業全体に影響を及ぼす恐れがある。 以上のような理由から、酪農振興対策として追加的な措置が急務である。	
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (南あわじ市酪農振興会)	
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	乳牛飼養頭数					指標単位
	指標説明 (指標算出 方法等)	管内の搾乳牛・育成牛の合計飼養頭数					頭
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標値	25	25	510	610	610	
	実績値	26	29	721			
	達成度(%)	104.0	116.0	141.4	-	-	
目標値設定 の考え方	平成19年度、20年度については優良後継牛の増頭・育成に主に受精卵移植事業を行っていたが管内の飼養頭数の減少を受けて21年度より、受精卵移植事業(目標値10頭・実績値10頭)ホルスタイン雌子牛保留促進事業(目標値500頭・実績値711頭)を行った。						
資源配分 (インプット)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	直接事業費(千円)	1,500	1,500	1,499	2,500	2,500	
	受精卵移植事業	1,500	1,500	500	500	500	
	ホルスタイン雌子牛保留促進事業			999	1,500	1,500	
	判別精子導入事業				500	500	
	財源(千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他						
	一般財源[A]	1,500	1,500	1,499	2,500	2,500	
	人件費(正規職員)[B](千円)	0	0	0	0	0	
	平均人件費(1日当り)	30.1	27.9	28.2	27.4	27.4	
事業量1(事業に要した日数)	1	1	1				
事業量2(事業に要した人数)							
年間経費([A]+[B])	1,500	1,500	1,499	2,500	2,500		
「目的」対象人数1人当り経費(円)	8,670.5	8,670.5	8,664.7	14,450.9	14,450.9		
経費に関する 補足説明	ホルスタイン雌子牛保留促進事業については、当初1頭あたり2,000円の助成を想定していたが、実績が予想を大幅に上回ったため、1頭当たりの助成額を1,406円に変更した。 平成21年度まで決算額。平成22年度以降当初予算額。						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
達成度	目標達成度	%	104.0	116.0	141.4	-	-
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 目標達成度だけをみると、十分な成果を出せているように見えるが、機械ではなく生き物が対象の事業であることから、毎年同じような成果を得られるかというところが課題である。また十分な飼養管理を行っていたとしても、病気等で家畜の生産性低下を招く事態が想定され、短期的な視点ではなく長期的な視点で事業成果を確認していく必要がある。						自己評価 (5点評価)
							4
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 平成21年度導入したホルスタイン雌子牛保留促進事業については、予想以上の実績が上がり事業の有効性は十分にあると考えられる。しかしながら、酪農に従事する農家の高齢化、後継者不足から、長期的な視点で有効性があるのかどうか今後の動向に注視する必要がある。						自己評価 (5点評価)
		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
効率性	事業単価	円	8,670.5	8,670.5	8,664.7	14,450.9	14,450.9
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 平成21年度実績に限れば、予想を上回る実績があがり予算の再配分を行う必要性が迫られたことから、コスト面での問題はないと考えられる。						自己評価 (5点評価)
							4
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 酪農家は南あわじ市の基幹産業である農業にとって、良質堆肥の供給という役割を担っており、酪農家の減少、規模縮小に歯止めをかけなければ農業全体に影響がでるおそれがあることから、必要である。						自己評価 (5点評価)
							4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		平成21年度に行った事業については、高い実績をあげており現状維持ではなく事業目的である乳牛増頭を達成できるよう、引き続き事業を継続していくべきと考える。				
			<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>				

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成23年度にできる改善・改革	平成24年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>農業については環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)をめぐる議論がされており、酪農についても例外ではない。</p> <p>平成22年度は猛暑の関係もあり、生産量の減少、廃用牛の多発など酪農を取り巻く環境は厳しい。生産量の維持と競争力を高めるためにも予算の充実と新たな事業展開を進めていく。</p>	
(現状維持以外の改善方法)	<p>新たな事業展開として、判別精子導入事業を行う。</p>	
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	<p>効果(アウトカム)面</p> <p>雌仔牛の増頭を図り将来の安定した生産量の確保へと繋げていく。</p>	<p>効果(アウトカム)面</p>
	<p>コスト面</p>	<p>コスト面</p>
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>酪農家は南あわじ市の基幹産業である農業にとって、良質堆肥の供給という役割を担っており、酪農家の減少、規模縮小に歯止めをかけなければ農業全体に影響がでるおそれがあることから、事業中止・廃止のデメリットは大きいと考える。</p>	